

群書類従の版本を保管する公益社団法人「温故学会」から「塙保己一ことども」と題した小冊子が刊行されました。温故学会のご協力により、掲載させていただきましたことになりました。子供からお年寄りまで、読みやすくわかりやすいお話をなつております。

塙保己一 ことども (提供: 公益社団法人 温故学会)



理事長 齋藤幸一氏

塙保己一をめぐる四人の女性

保己一の結婚は遅く37歳の時で、相手は紀伊家医師・東条清民の娘・ティという人でした。翌年には長女・とせ子が生まれ塙家は幸せに包まれていました。

このとせ子は、後年父・保己一が編纂する『群書類従』の版下を書くなど達筆な面をもつており、さらに和学講談所の切り盛りをするなどして父の事業を献身的に助けています。

ところが3年後に理由は分かりませんが、娘を置いて離縁することになります。そして結婚年次は分かりませんが、西文次郎の娘・たせと結婚し寛政2年、保己一にとって待望の長男・寅之助(8歳で死亡)が生まれます。しかし、たせは健康に恵まれずその後体調を崩し、臥せる日が続きます。

保己一もすでに45歳になり、事業を継承する跡継ぎをと考え、塙家の家中であつた若い岡田イヨと結婚します。そして57歳で次男・道之助(夭折)、60歳で三男・熊太郎、62歳で次郎(保己一の後継者2代目・忠宝)が生まれます。

このように保己一の周りには3人の女性が存在していました。

保己一の高弟である石原正明は、当時の塙家の様子を『年々隨筆』という著作に表しています。正明は、文化元年(保己一59歳)12月30日のたせの臨終に際し、たせ、イヨ、とせ子は常日頃から仲が良く、涙に暮れたと書き留めています。保己一の事業(和学講談所の運営や史料編纂など)を継承すること、また塙家の後継者を育てることで3人の女性は陰ながら保己一を支えたのです。

顕彰会への加入・継続をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会は、平成19年7月26日に市民参加による顕彰会として発足いたしました。顕彰会では、塙先生の遺徳と事績を広く顕彰し、その精神の普及を図ります。毎年、命日の9月12日に塙先生の遺影に菊の花を捧げる顕彰祭を開催するほか、説明会など各種啓発事業を行っています。

みなさまのご加入・会員継続をお待ちしております。



年会費 個人会員 一口 千円、 賛助会員(団体) 一口 一万元

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ)、アスピアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。

発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内

所在地 〒367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

そうけんぎょう はなわ ほきいち せんせい いとくけんしょうかい

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会報誌

第39号 令和2年12月号



ごあいさつ

日々寒さ深まる季節となりましたが、会員のみなさまにはご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

本年、塙保己一先生の没後200回忌を迎えた9月12日には、午前中に保木野自治会、親族の方にお集まりいただき、新型コロナウイルス感染症予防のため規模を縮小して200回忌の墓前祭を執り行いました。また午後には、予防対策を行いながら顕彰祭を開催いたしました。

さらにこの度、顕彰会の事業部会長が中心となり、没後200回忌記念誌の「総検校塙保己一先生の顕彰活動のあゆみ」を発行いたしました。この中には、明治・大正・昭和・平成・令和と、脈々と培われてきた顕彰活動の記録や貴重な資料が1冊にまとめられております。

来年も塙先生の没後200周年の記念すべき年となります。顕彰会では、現在、200周年に向けた記念事業の一つとして、物語風の小冊子の作成を進めております。その他にも市と協力し合い、記念事業を計画し、先生の遺徳とその精神の普及を図ってまいります。

皆様には今後とも、遺徳顕彰事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田信解

総検校塙保己一先生200回忌の墓前祭・遺徳顕彰祭が開催されました

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では、塙保己一先生の命日である9月12日、午前は、保木野の墓前にて、200回忌法要を、神仏習合で執り行いました。参拝、焼香は顕彰会役員とご親族、地元自治会に限定して行いました。



午後は、セルディにて、遺徳顕彰祭を開催しました。式典開会前には、顕彰会事業部会の根岸部会長が午前中の墓前祭の様子をスライドで紹介いたしました。

コロナ禍であり、感染症予防対策をとりながらの開催でしたが、無事に、式典を終了することができました。

没後200回忌記念事業として市民総合大学との連携講座を開催しました

第1弾 9月19日(土)



塙 正一 氏



宝井琴梅 氏

第1部は長年、塙保己一先生に関する数多くの出版と講演活動を行っている塙正一先生による「素顔の塙保己一」の講演、第2部では講談協会の理事を務め、講談の普及に尽力しておられる宝井琴梅師匠による講談で「愛の巾着袋」を語って頂きました。

(講談の「愛の巾着袋」の原作は、塙正一先生によるものです。)

第2弾 10月24日(土)

(公社)温故学会理事長の齊藤幸一氏に「塙保己一江戸ゆかりの地を巡る」の講演をしていただきました。

講演の中では、写真にて、和学講談所跡地や平河天満宮などのゆかりの地の紹介をしていただきました。



齊藤幸一 氏

第14回 塙保己一賞表彰式・記念コンサートを開催

埼玉県では郷土が生んだ偉人「塙保己一」の精神を受け継ぎ、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する塙保己一賞表彰式・記念講演を下記のとおり開催します。

※今回は事前申し込みが必要です。

【本庄市共催】入場無料です。

【日 時】 令和2年12月19日（土）

13時～15時30分

【会 場】 本庄市児玉文化会館（セルディ）ホール

【時 間】 開 場 12時～

表 彰 式 13時～14時

記念コンサート 14時20分～15時30分

【内 容】 出 演 者 片岡 亮太氏

(静岡県在住 全盲の和太鼓・パーカッション奏者)

上智大学文学部社会福祉学科卒。社会福祉士の資格も取得。

国内外でコンサート・講演・ワークショップを実施

演奏予定曲 「光る鼓動」「大地」「寛伽羅麗」ほか

【申し込み】メール、電話、FAX のいずれかの方法でお申し込みください。

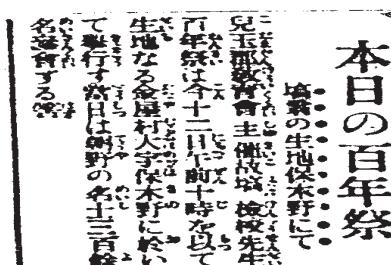
申込締切 令和2年12月7日（月） ※別紙案内チラシ裏面を参照してください。



新聞記事から見た塙保己一の顕彰活動

※東京日日新聞（とうきょうにちじんぶん）◇現在の『毎日新聞』（東京）の前身で、明治五年二月二十一日に創刊された東京発の日刊紙

今回紹介する新聞記事は、東京日日新聞の埼玉版に大正十年に掲載されたながら「塙保己一」に関連した記事を抜粋したものです。



（大正十年十一月十二日）

（東京日日新聞）

◎原文の誤字は正しい文字に、旧字体は新字体に訂正しております。